

福島敏夫随筆集「乙戸南雑話【花鳥風月及び星・虹を愛でながら】」から

主宰論説7

燕と雀

今年も、燕が渡ってきて飛び交うのを見かけるようになった。ところが、昨年と同じく、近くのコンビニエンス・ストアの監視灯の上に巣を作っているのを見かけたのは、驚きである。昔は、燕の巣は、民家の軒先と決まっていたのであるが、昨今、そのような人工物に巣を作るのが気に入っているものと思われる。近くには乙戸川の流れがあり、その一角だけは、住宅地に似合わず水田が可能であり、巣を作るための泥、わら、木の枝などの収集に事欠かないらしい。ところで、燕は渡り鳥であり、やがては南の方に帰ってしまう。乙戸南公園でよく見かける雀は、留鳥であり、年がら年中近くにいるが、雀の巣はどこにあるのか、見当もつかない。燕と雀、どちらも、自分の生き方に合

俳句： 巢を構ふ鳥に見たり生きぬ知恵考えると不思議な対比である。

平成 24 年 5 月 15 日

燕と雀(その 2)

8 月から 9 月に月が変わった。夏から秋への季節の変わりである。それとともに、燕がいなくなり、雀が頻繁に飛び交うようになった。稲穂がたわわに実をつけた水田や電線で、雀が群をなしている。燕も雀も住宅地でよく見かける鳥であるが、活動の時期の交代があるようだ。5 月から 8 月までは、燕の独擅場であった。水田でも電線でも、見かけるのは燕ばかり。8 月半ば頃、近くのコンビニエンス・ストアの監視カメラの上に燕が作った巣には、雛を三羽見かけた。どうやら子育てを終え、南の方面に戻っていったようだ。それとともに雀の活動が目立つようになった。燕が渡り鳥、雀は留鳥であることを改めて、実感する次第である。

平成 24 年 9 月 5 日

俳句： 燕去り雀の天下稲穂かな

燕の再来

燕が、南から渡ってきたらしい。今年は、春は名のみで、殊更に寒い日々が続いていたが、昨年より 1 ヶ月ぐらい早い再来である。相変わらず、近くのコンビニエンス・ストアの軒先の監視灯の上に巣を作ったらしい。雌雄の燕のつがいが、雛燕に、交互に餌をは運んでいるのが見られるようになった。人間界の諸事の異変や天変地異に関わらず、生来の本能を続けているというのは驚きである。燕よ、地球に生息した愛らしい鳥として、末長く生物種を続けて欲しいと思う次第である。

平成 25 年 4 月 5 日

俳句： 渡り鳥今年も元気燕かな

